自然と歴史を繋ぐ「共生空間」

構造：鉄筋コンクリート構造＋一部鉄骨
建築面積　74.04 ㎡
延べ面積　43.57 ㎡

仕上げ
トイレ　壁：ベベルサイディング
　　床　複層ビニール床シートFS

子どもの成長に欠かせない要素として、親からの視線が重要となってくることが、研究で明らかになっている。

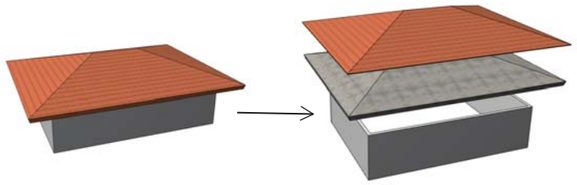
しかし昨今の公園では子どもだけで遊ばせて、親はベンチでスマートフォンを触るという問題が話題になったこともある。親子の関係性に新しい溝がうまれつつある。この現状課題を解決するためには、親子の共生を目指す必要があり、今までの考え方である「ベンチは休むところ、遊具は遊ぶところ」という概念を見直さなければならない。

今回の設計では、親子の共生を考えてベンチと遊具の関係性について、またトイレを利用する人がより一層使いやすいように配慮した設計を行う。

中城公園の基本方針である「沖縄の歴史・文化・自然」この中で、最も重要視したのが「自然」です。中城公園では自然を身近に感じることができ、多様な生物の姿を見る事ができます。トランポリン広場でも同様にトンボや蝶々の姿を見ることができます。しかしメインはトランポリンであり、生物が多い広場のゾーンには子どもの姿は少なく生物の存在に気づかない現状があります。今回の設計では、子どもたちがもっと自然と生物に目が行くような配置を計画します。

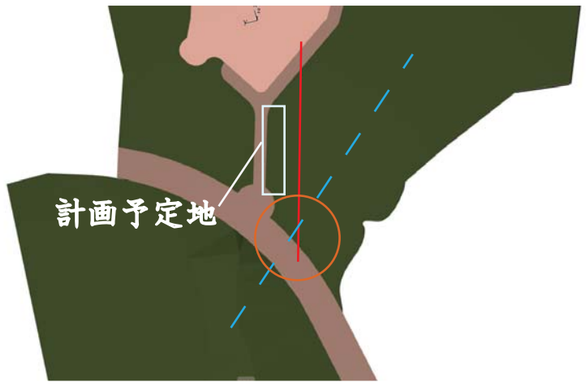
タイリクショウジョウトンボ

ウスバキトンボ



既存のトイレ　　分解

既存のトイレを活かして、赤瓦を屋根としてそのまま載せるのではなく他の部分で利用を考えまず躯体、屋根、仕上げと分解しました。

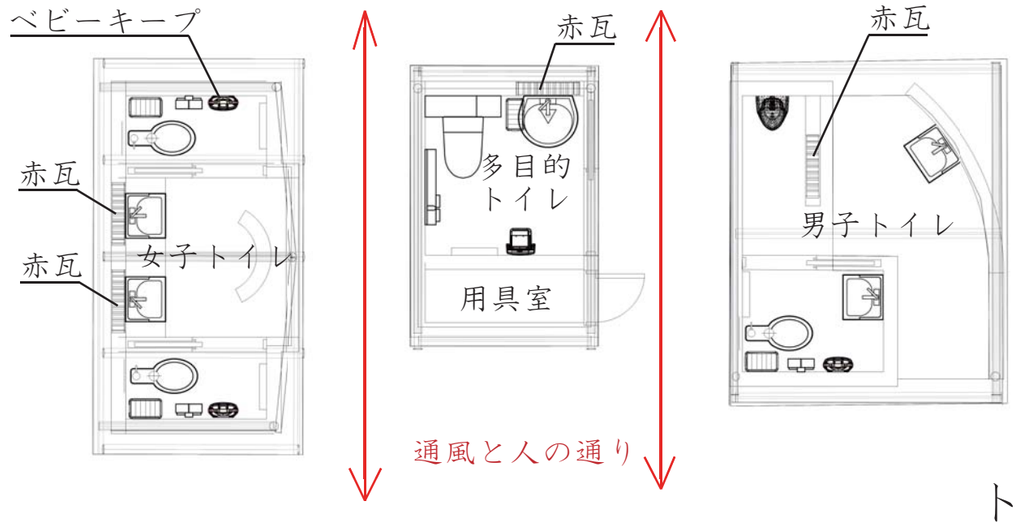


敷地図（生物・人の動き）

トランポリン広場では多くの生物が見ることができます。生物の同線と人の同線を考慮して**丸**の部分に配置すると障壁になってしまうことから敷地の線にそって配置しました

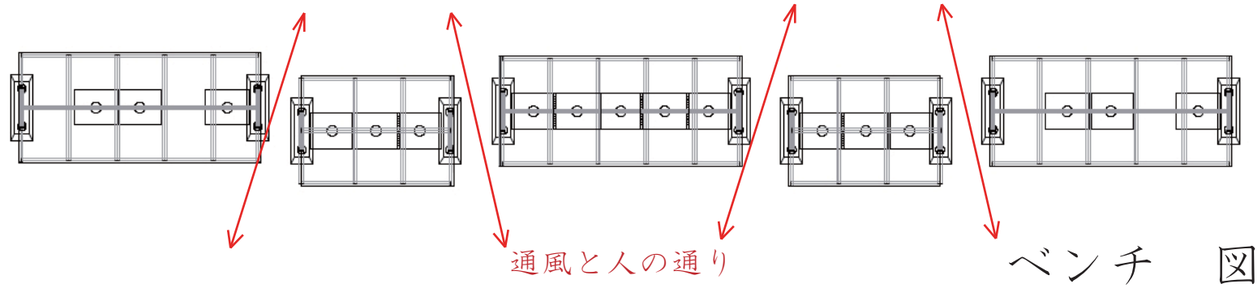
人の動き
生物の動き

敷地配置図　トイレ　ベンチ

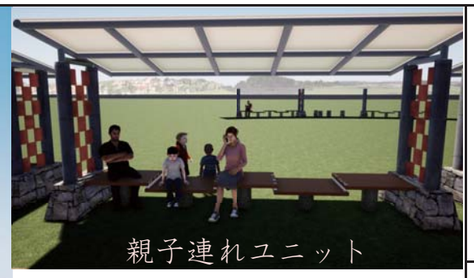


トランポリン広場では裸足で遊ぶこうとから、足を洗うスペースのために配置しました。

トイレ　図面



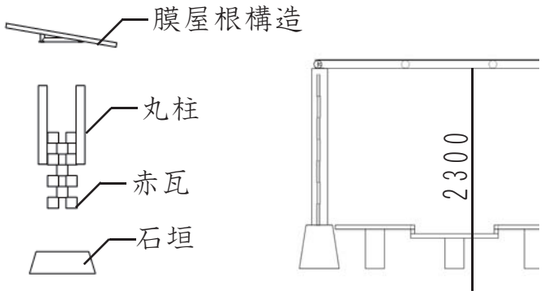
ベンチ　図面



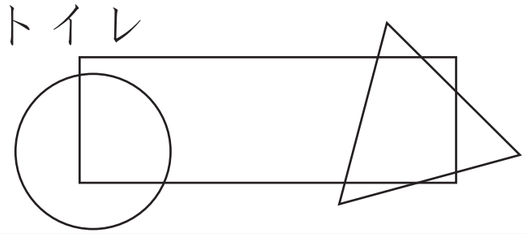
少数ユニット

ベンチでは膜屋根を用いて、優しい自然光を取り入れつつ、ゆったりと休める空間にしました。
　また、ベンチの高さを大人用と子ども用に分けることで両者にとって座りやすくしました。

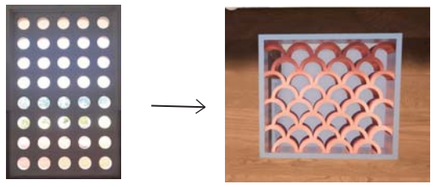
柱の部分には日除けとして、赤瓦を高く積み上げて中城の歴史的、文化的景観に配慮しました。
　今後このユニットで公園内にベンチが増えていくことで多くの場所で会話のシーン展開を見ることができます。



トイレ



既存のトイレのイメージは四角く、堅牢なイメージですが、今回の敷地はトランポリン広場のトイレということで、四角いだけのトイレでは敷地から浮いてしまうと考え、トランポリンの柔らかいイメージの丸や立面で見たときにの三角形の形を要所、要所に取り入れました。

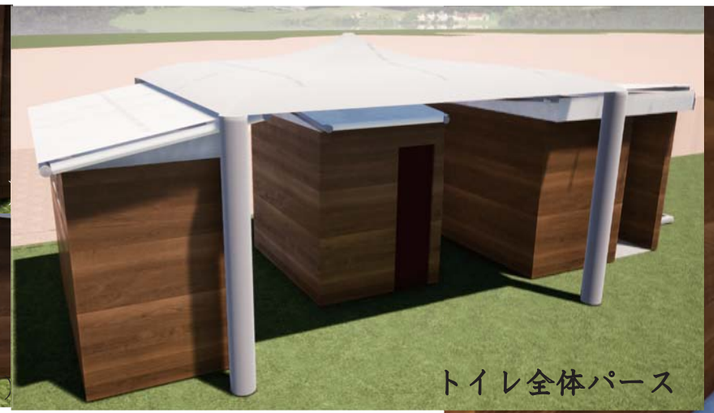


花ブロック　→　花ブロック（赤瓦）

今回のトイレでは既存の花ブロックではなく、より中城公園の歴史、文化を加味して赤瓦を用いた花ブロックを作成しました。また女子トイレだけにベビーキープを置くのではなく男子トイレにも配置しました。また子どものおむつ替えを多目的トイレに置くことで女性だけが参加するのではなく男性と分担してできるように配慮しました。

女子トイレ（壁あり）

女子トイレ（壁あり）



トイレ全体パース

男子トイレ花ブロック